

郷音

ひびき

「響」とは「郷」の「音」と書きます。私ども東京福祉会では、この温かなものを大切に「心に響く葬儀」を目指しております。

東京福祉会だより（響）は、個人・団体会員や当会をご利用いただいた皆様をはじめ、都内の各福祉事務所・施設などにお届けしております。



東京福祉会だより

第79号（通刊102号）平成29年5月発行

今号の
エッセイ

「自分が死ぬことを考える」

イラストレーター、装丁デザイナー、エッセイスト 南 伸坊 氏

ワンポイント
アドバイス

「知っておきたい」ワンポイントアドバイス

「もしもの時」に備えて、確認・準備しておきたいこと

平成29年度上半期（4月～9月）行事予定／東京福祉会の基本方針「わ」の精神／葬祭セットリニューアルのお知らせ

大正8年創立



社会福祉法人 **東京福祉会**

自分が死ぬことを考える

イラストレーター、装丁デザイナー、エッセイスト

南 伸坊



大体、昔からあまり先のことは考えない方でした。

小学校のころ、授業中に我慢が出来なくなると、大小便を洩らしてしまつたことが、複数回ありました。

たいがい、なんとかなる、と思っているから、予めトイレにいつておかないので、そういうことになる。

中学生になってからは、そんなことはなくなったかといえばそうではないので、やはり授業のはじまる前に、予め大小便をすましていないために、授業が始まつてから便意を催すということが、何度かあったと思う。けれども、その頃は手を挙げて、「便所へ行ってきていいですか？」と断れば行けると分かつたのでそうしていたと思う。そんなことは、特別なことではないから何度あったか思い出せない。

中学生になって、隣のクラスの学級委員のK君が「うんこもらした」といつて、学校中の噂になった時には、どうしてK君は「便所に行きたい」といつて言い出せなかつたんだらう？と思つた。小学校時代の経験があるから、K君には同情したけれども、先生に「ダメだ」と言われたつて、自分なら、そのまま走つて便所にいくからなあ、と思つていたわけです。

原稿の「内容」に関しては、編集部から、「死」や「宗教観」に関するエッセイを依頼されているのに、いきなり「大小便」を洩らす話から始めるというのは、トンチンカンなのですが、小学生時代の失敗を中学生になつても修正できていなかった、以後も先々の事を考えることはないだらう。ということを身近

な例で告白したというわけです。

「人は必ず死ぬ」

ということは何度も教えられて知つていましたが、そのことを深く考えるということをしないう子供でした。

人は子供の時に、最も「哲学的」なことを真剣に考えるものだ。と私は思っています。それは人間を七十年近くやっていけば、自然にわかります。

子供は自分が死ぬとはどういうことかそのことを考えて「コワイ思いをし、コワイあまりに」「自殺」を考えたりするようです。頭のいい子供は、たいがい自分の死ぬことや、自分を殺すことを考えるのです。

私は、いままで「自殺」を考えたことがただの一度もありませんし、自分は「どんなふうに死ぬだらうか」

「死んだあとはどうなるだらうか」「死後の世界とかはあるだらうか」と、一度も真剣に考えたことがありません。

そういうことを考えるのはエンギがわるそうだし、たのしくなさそうだと思うからです。なんだか「こわい考え」になつてしまつて、と思つていたからだと思つた。

私が、こういうエンギでもないようなことを考えるのは、たいがい、こんな風に「題」を与えられて、考えるのを促された時です。

いままでは、たとえば「老いる」ことについて、何かを考えて書いて下さい、と促されることが多くて、その都度そんなことを書いてきたもので、六十六才の時に『オレって老人？』という疑問形の題の本が出るようなことになつた。

その以後にも、そういう「老人」や「老齡」をテーマにした作文を頼まれて、それが溜まり六十七才のときに、こんどは『おじいさんになったね』と他人事のようなタイトルの本を出してしまいました。

そうして、そろそろ七十才になるうとしてるわけだから、もし今度本を出すとしたら、『そろそろですな』とかいうものになるうかと思えます。

そうして、冒頭に述べましたように、私は先のことを考えられない、エンジニアでもないことは、自発的に考えないという人間なので、「死」とか「自分の死」というようなことについて、やはり考えないで、ここまで来てしまったというわけです。

しかし、今回、そういうテーマで、ひとつ作文を書いてほしいということなので、いま

「じゃあ、ちよつと考えようかな」と思ったところです。

私は、ほんとに数えるほどしかない読者のために「ロボとピュー太」というマンガを描いているんですが、これはロボットのようなお父さんと、アンドロイドのようなコドモ二人が主人公のマンガで、たいがいコドモがお父さんに質問をするところから始まるマンガです。

このマンガのキャラクターをつ

かって、

「中学生までに読んでおきたい哲学」というシリーズの『死をみつめて』という本に、マンガを描いてくれ、という依頼があつて、これはもう今から五年も前のことなんです。こんなマンガを作りました。

ピュー太が表紙にエンマ様の描いてある「地獄」という絵本をよみながら、おとうさんに質問します。

「おとうさん、死後の世界つてあるんですか？」

おとうさんは、釘抜きで壁の釘を引き抜きながら

「ああ、ある」と答えます。

「じゃあ、死んだらピュー太も、そこに行くんですね」

「いや、死んだらピュー太の死後の世界は、なくなるんだよ」

といてロボがもう壁の釘は引き抜いてしまったらしい絵で終わっています。

これがまあ、五年前に考えた私の「死」とか「宗教観」のようなものです。頼まれたので考えた。

この時の考えは「死後の世界というの、人間の意識が、死んだらいまこの考えている自分、つまり意識そのものがそのまま呆気なく、ないものになってしまう」ということの

「かたづかない気持」が作り出したものなのだ。ということ。だから「死後の世界」は、それを必要とする人のあいだで共有されています。しかし、意識というものは、生きてる脳ミソの中で成り立っているものですから、死んでしまえばなくなってしまうのだ。ということ。

人間が、なにか考えるというのは、この意識が担当していることですから、死んだらどうなるんだろう、死後の世界つていうのはあるのかな、エンマ大王が釘抜きを持ってるって、これは本当かな？ もしそれが嘘だったら、死後の世界を考え出したヤツを、エンマ大王はどうする気かな？ などのように考えることすべし、意識があるからなのだったということがいえるでしょう。

ところで、私は老人になって、小便が近くなり、夜十一時ごろに寝ると、たいがい一時くらいには、小便がしたい気がして目が覚めてしまうのです。

その時に、たいがい「アレ？ もう朝だと思ったら、まだ三時間しかたつてないじゃないか」と思います。

時には、十時に寝たはずなのに、十二時ちよつと過ぎになって目が覚めたりすることもあつて「おやおや、

まだ二時間しか経っていない」と思いながら、この二時間の間のことがまったく「なかつたみたい」に覚えていないのにおどろいているんです。その間は意識がはたらいてなかったから、つていうそのことになんたか「納得いかない」ような気分があるんですね。だからまあ、自分が死ぬということに、カンタンに納得がいかないつていうのは、こういうことなんだろうな、と思つています。

PROFILE

南 伸坊 (みなみ しんぼう)
1947年東京生まれ

イラストレーター、装丁デザイナー、エッセイスト。

著書に『のんき図画』(青林工藝舎)、
『装丁／南伸坊』(フレーベル館)、
『本人の人々』(マガジンハウス)、
『歴史上の本人』(朝日文庫)、
『健康の味』(白水社)、
『笑う茶碗』『狸の夫婦』(筑摩書房)
『黄昏』(糸井重里と共著、東京糸井重里事務所)など。

平成29年度上半期（4月～9月）東京福祉会行事予定

展示会 （盂蘭盆会・彼岸会同時開催）

今年度も、「展示会」をお盆やお彼岸の法要と同時開催いたします。

実際に葬儀にて使用する祭壇をはじめ、会葬御礼品やお香典返しなども展示いたします。

普段じっくり見る機会にない祭壇や商品を、是非この機会にご確認ください。

また、当日は葬儀の事前相談（事前予約制）や会友制度の加入申込みも承ります。

■時間／9:00～15:00

開催区分	開催日
盂蘭盆会・展示会	7月15日(土)
	7月16日(日)
事前予約受付期間／7月8日(土)まで	

開催区分	開催日
秋季彼岸会・展示会	9月22日(金)
	9月23日(土)
	9月24日(日)
事前予約受付期間／9月15日(金)まで	

人形・ぬいぐるみ供養

平成29年1月29日(日)江古田斎場にて人形供養を執り行いました。

205名の方からお預かりしたお人形は、一体一体、大切にされてきた愛情や歴史に思いを馳せながら、職員が祭壇に飾らせていただきました。「ただ捨ててしまうのではなく、供養してあげたい」という皆様のお手伝いが出来たことを、大変嬉しく思います。



東京福祉会では今年度も人形供養を執り行います。

具体的な日程やお預かり方法につきましては、次号（9月発行予定）に掲載いたします。

くらしの学習講座 「写経教室」

（会友Bプランご加入の皆様限定）

東京福祉会では、今年度も「くらしの学習講座・写経教室」を開催いたします。

写経をすることは、私たちが仏のおしえの中に入る事です。言い換えれば、心豊かな生活を送るための大切な修行と言えます。

そのため、当日は正しい作法での写経をお伝えいたします。

お持ちいただく物…小筆、硯、墨（墨汁可）、下敷き、文鎮

※当日、道具の販売もありますが、数に限りがございます。なるべく道具はご持参ください。

なお、筆や硯の代わりに筆ペンでも参加いただけます。



■定員／各日程先着30名

■費用／無料

■メ切／各開催日の3日前

※定員になり次第、締切とさせていただきます。

開催日	開催場所	時間
6月22日(木)	ホール多摩国立	10:00～12:00
7月31日(月)		
9月26日(火)	道灌山会館	
10月31日(火)		

江古田斎場での開催は、下半期を予定しております。

東京福祉会のグリーンフケア「わ」の会

●「わ」の会とは

東京福祉会のグリーンフケア「わ」の会」は、葬儀を終えられた方々が経験される、大切な方との死別によって生じる強い悲しみや悲嘆（グリーフ）を少しでも癒していただきたいとの想いで、平成19年にスタートしました。

「わ」の会は次の3つの「わ」の総称として名付けて、その想いを込めて活動しております。

【和】悲しみや怒りなど様々な感情を癒し、少しでも和んでいただきたい…

【話】誰にも話せない気持ちを話すことで、想いを共感しながら癒していただきたい…

【輪】悲しみや怒りなど様々な体験談を当機関紙にお寄せいただき、「わ」の会」に参加出来ない方への想いを繋いでいきたい…

悲嘆が癒され、無事この「わ」の会が不要なものになることを、当会では「卒業」と呼んでおります。今までに約1000名を超えの方々が参加され、多くの皆様が「卒業」されました。

●「わ」の会の活動内容

《参加方法》

当会にて葬儀を終えられたご遺族に案内状を送付し、事前予約をお願いしております。

《活動内容》

第一部

■和（なごみ）の時Ⅰ

〈参加条件〉

葬儀を終えられて1年以内の方

〈内容〉

専門家による講演

■和（なごみ）の時Ⅱ

〈参加条件〉

どなた様でも参加できます。

〈内容〉

専門家による講演と座談会

第二部

■話（はなし）の時

〈参加条件〉

話の時に参加するには、和の時ⅠまたはⅡに参加する必要があります。

〈内容〉

小グループに分かれての座談会

〈参加時のルール〉

(1) その場で話された内容は外に持ち出さない。

(2) 内容を記録（録音やメモ等）に残さない。

(3) 他人を否定や中傷するようなことは言わない。

※ファシリテーター（話をスムーズにする専門家）が1グループにつき1名参加します。

●開催スケジュール

※会場は江古田斎場です。

開催区分	開催日時	時間	お申込み締切
和の時Ⅰ	5月6日(土)	10:00~13:00	4月26日(水)
和の時Ⅱ	5月18日(木)	10:00~12:00	5月8日(月)
話の時	6月27日(火)	10:00~12:00	6月7日(水)
和の時Ⅰ	8月18日(金)	10:00~13:00	8月8日(火)
和の時Ⅱ	8月29日(火)	10:00~12:00	8月19日(土)
話の時	9月20日(水)	10:00~12:00	9月6日(水)
和の時Ⅰ	11月6日(月)	10:00~13:00	10月27日(金)
和の時Ⅱ	11月28日(火)	10:00~12:00	11月17日(金)
話の時	12月21日(木)	10:00~12:00	12月7日(木)
和の時Ⅰ	H30年2月12日(月)	10:00~13:00	H30年2月5日(月)
和の時Ⅱ	H30年2月23日(金)	10:00~12:00	H30年2月16日(金)
話の時	H30年3月23日(金)	10:00~12:00	H30年3月3日(土)

各行事に関するお問い合わせ・お申込みは、巻末の渉外部連絡先までお電話ください。

東京福祉社会の基本方針 わの精神（真心・安心・向上心）

ホスピタリティを追求し続け1世紀。地域の葬儀アドバイザーとして、これからも、いつまでも…

東京福祉社会は大正8年に発足してから、故人と残された方々への「ホスピタリティ」を第一に考えてまいりました。目には見えない「縁」

や「絆」を、改めて実感できるのが葬儀という場面です。その大切な時間、いかに皆様の想いを表現するか、お心に寄り添えるか——職員は常にその想いを胸に、務めさせていただきます。

近年では「終活」という言葉が浸透し、その一環として「生前に葬儀について考える事」を進んで行う方が増えてきました。

しかし、特に決まり事がない分、興味はあるが具体的にどのようなことをすればよいのか？と悩む方もいらっしゃるようです。

終活と東京福祉社会

私共は、終活とはこれからの人

生をよりよく過ごすために、これから起こる可能性のある心配事について、一つずつ考えて備えておくこと、と考えています。

介護や医療を受ける際の希望、もしもの時にはどのような葬儀にしてほしいか、お墓や相続について等、内容は多岐にわたります。指針もなくこれらについての情報や考えをまとめるのは、難しいことです。

そこで、私共は終活の手助けになればとの思いで、地域の社会福祉協議会や特別養護老人ホーム、あるいは町会の皆様が主催するセミナーに講師として参加し、葬儀についての知識をお伝えするという活動を行っております。

平成28年度は20回のセミナーを行い、約500名の皆様にご聴講いただきました。

葬儀社に直接相談することに対して、抵抗を感じる方もいらっしゃると思います。しかしご葬儀は、終活を行う上で大きな要素となりま

す。また、自分がどのような葬儀をしたいのか、葬儀費用や流れについて事前に決めておくこと、家族にそれを伝えておくことで「知らないことへの不安」を安心に変えることが出来るのです。

私共をはじめとする講師の属する会社・団体の営業等もなく、安心して参加していただけます。是非一度、お気軽にご参加いただければ幸いです。

終活はいつから？

終活を始めるタイミングは人それぞれですが、元氣なうちに取り組むことが望ましいと言えます。

これまでの人生を振り返り、お世話になった方々との記憶を思い返すことは、この先の人生の過ごし方や大切な方との付き合い方が変わり、前向きになれると言われていきます。

また、本人やご家族が葬儀を意識するような状態になってからは、「快癒を願いながら、葬儀のことを考える」という辛い状況に陥ってしまいます。

東京福祉社会では、皆様お一人一人に合わせた終活をこれからもお手伝いしてまいります。ご質問等ございましたら、是非声をお掛けください。



「もしもの時」に備えて、 確認・準備しておきたいこと

家族を送り出す際には、限られた時間の中で様々な意思決定や準備を行わなければなりません。

悲しみと混乱の中で、あると思っていたものが無い、知っているのに思い出せない、といったことが起こります。ここに挙げる内容は、皆さんの知っていることばかりかもしれませんが、改めて確認し、まとめておくことをおすすめします。

●各書類の記入に必要な情報

家族が亡くなった時、医師から死亡診断書を受け取ります。

これは死亡届と一体になっていて、死亡届の欄は親族が記入します。故人と届出人の情報を記入しますが、

合併があった地域や筆頭者が故人となっている場合など、記入に迷う方が多くいらっしゃると思います。本籍地や戸籍の筆頭者氏名については、一度確認しておきましょう。

また、死亡届に記載する氏名は、戸籍上のもので同一でなければなりません。

旧字体と新字体の違いや、かつて登録されていた書き癖等による文字（誤字）、戸籍電算化で文字が変更されていた等、戸籍と異なる文字を記入したために受理されないというケースがあります。

●葬儀打ち合わせ前に

【事前相談の有無】

終活という言葉が浸透し、自分自身の葬儀について考えたり、更には葬儀社と契約を済ませているという方が増えていきます。

しかし自分一人で準備を済ませ、家族に言わなかったために、別の葬儀社に依頼されてしまったという話は、弊会でも何度か耳にしています。

縁起の悪い話と思わず、確認しておけば安心できる話として、ご家族でお話し合いされてはいかがでしょうか。

【宗教】

ほとんどのご葬儀は、宗教的儀礼

として宗教者主導のもと執り行われます。宗旨宗派によって形式が異なりますので、自分の家はどのようなか把握しておきましょう。

また、菩提寺がある場合には、その連絡先も控えておく良いでしょう。

家族の誰かが別の宗旨宗派を信仰している場合などは、その先のご供養のことも考えて、話し合いが必要です。

【知人・関係各所の連絡先】

家族の交友関係は、知っているようでも意外と知らないものです。最近では、連絡先はスマートフォンに登録され、いざという時家族が確認できないということもあります。

連絡先と自分との関係をリストとして書き出し、家族が分かるようにしておくとういでしょう。

【写真選び】

ご葬儀の際に作る遺影は、皆様にご覧いただくものであり、また後々まで残るものです。

アルバムから選んだが、デジタルカメラの中にもっといい写真があったら、等ということのないよう、綺麗に写っているお気に入りの写真を、事前に何枚か選んでおくことをおすすめします。

なお、ご遺影はプリントされていない、データの状態からでも作成できま

す。

●一人暮らし、親族と疎遠な方

本籍地などを調べておいても、一人暮らしで万が一の時どうなるのか不安という方もいらっしゃると思います。

判断能力が十分あるうちに、任意後見人を決めておく、司法書士や弁護士等の専門家と契約する、などの方法があります。

後見人制度については、お住まいの地域の社会福祉協議会にお問い合わせください。

●エンディングノート

エンディングノート（発行元によって名称が異なります）は、自分のことや葬儀への希望等を項目別に整理して記入できるようになっており、終活入門としてもおすすめです。

書店で販売されている他、自治体で配布・販売している所もあります。東京福祉会でも、会友B会員様への特典として無料でお届けしています。

気負わず、余裕のある時に少しずつでも確認しておく、もしもの時の心身の負担を軽くできます。

（東京福祉会 会友事務局）

東京福祉会からのお知らせ

葬祭セットリニューアルのお知らせ

前号(78号)でご案内させていただいたとおり、平成29年2月1日より、葬祭セットの内容が新しくなっております。

今回リニューアルした葬祭セットは、東京福祉会が目指している「その人らしい葬儀」を実現するための内容となるよう検討を重ね、完成したものです。

今回は、主なりリニューアルの内容をご説明いたします。

● 仏式祭壇

昨今の葬儀事情の変化に対応し、より「その人らしさ」が表現できるセットにしました。

祭壇の大きさだけではなく、お花飾りや世界に一つだけのオリジナル会葬礼状をセットに含めることで、より故人様やご家族の皆様の想いに叶ったお別れが表現できる内容となっております。

また、ご予算に応じて選択できるよう、6種類のパッケージをご用意しました。

● 花祭壇

仏式祭壇と同様、祭壇の大きさの他に、お花を多く用いたデザインを増やし、大切な方への想いを表したいというご要望にお応えでき



『オリジナル花祭壇』もご用意しております。

お棺の廻りに椅子を並べ、故人様と最後のひとときを過ごせて良かった、というお声もいただきました。

● その他サービス

故人様との絆を表すサービスとして、メッセージ折り紙、故人との思い出コーナーを全ての葬儀でご提案させていただきます。〇〇さんらしい葬儀だったね」というお言葉をご家族や会葬者様から頂けることを目指し、これからも取り組んでまいります。



資料請求

ご葬儀に関する詳しい資料をご用意しています。下記連絡先までお気軽にご請求ください。

- ① 葬祭料金のご案内
- ② 道灌山会館限定
家族葬プランのご案内
- ③ ホール多摩国立限定
シルクフラワー祭壇のご案内
- ④ ご火葬のみプランのご案内
- ⑤ 道灌山会館のご案内
- ⑥ 江古田斎場のご案内
- ⑦ ホール多摩国立のご案内
- ⑧ 聖恩山霊園のご案内
- ⑨ 会友制度Bプランのご案内
- ⑩ エッセイ集 響の縁



お問い合わせ・お申し込み

〈電話〉 ☎ 0120-00-5677 東京福祉会 渉外部

〈E-mail〉 info@fukushikai.com

〈URL〉 <http://www.fukushikai.com>

東京福祉会

検索



「東京福祉会だより(響)」は再生紙を使用しています。